

年間第 28 主日 (ルカ 17:11-19)

あなたの信仰が、今日神の救いのわざを完成させた



過ぎた木曜日、救急搬送された母親を見舞いました。「見舞い」と言うより、「看取り」に来たつもりでした。次男からの報告では、水曜日に吐血したときは、大量の出血があり、血圧も尋常でない下がり方をしたというので、最後の言葉を聞きに来たつもりでした。救急搬送されたあと、当直の医師が懸命の治療をしてくださったようです。眠れぬ夜を過ごして、朝 7 時半のジェットfoilに乗りました。

ところが母は、いざ面会してみると自分の置かれている状況をまったく理解してなくて、緊急事態を脱したあととはとても思えない、機関銃のように起こった出来事を話し始めたのです。しかも時間をずらしてやって来る子どもたちに、同じ話を一から繰り返しました。まるで楽しんでいるようでした。深刻な状態を想定して、茨木から、福岡から、福江からやって来ている子どもたちを拍子抜けさせる元気さでした。

ただ、もう一度吐血したら覚悟してくださいとかかりつけ医から釘を刺されていますので、仮に子どもたちが一息ついてそれぞれ帰ったとしても、急に呼び出されて皆さんに迷惑かける可能性は十分あります。その時は申し訳ありませんが力を貸していただきたいと思います。

福音朗読の学びを得ましょう。皆さんが、集団で「イエスさま、先生、どうか、わたしたちを憐れんでください」(17・13)と叫ぶとしたら、どのような状態になったときでしょうか。私は最近左肩が上がりなくなりました、いわゆる「五十肩」に苦しんでおります。

同じ思いをしている人はこの中にもおられるかもしれませんが。ついですが、福江教会の司祭館は主任司祭の私が 3 月生まれで 59 歳、助任司祭の一人が 58 歳、もう一人が 53 歳ですが、二人のうち一人は同じ「五十肩」です。肩の痛みを食事の時などに分かち合いますが、だからと言って「主任神父様、イエス様に一緒をお願いしてみましよう。『イエスさま、先生、どうか、わたしたちを憐れんでください』」。と叫ぶかということ、そうはなりません。

どれくらいの緊急性が生じると、「イエスさま、先生、どうか、わたしたちを憐れんでください」と叫ぶのでしょうか。先週水曜日の夜は、少し体験できたかもしれませんが。救急搬送された時点で、「出血が止まらなかったら覚悟してください」と言われたと LINE の知らせがあったので、会えないままのお別れは絶対に避けたくて、「イエスさま、先生、どうか、わたしたちを憐れんでください」という気持ちでした。

朗読の中で登場した重い皮膚病を患った人たちは、十人とも癒やされていたと考えられます。しかし、病が癒やされたとき、病の向こうにあるイエス様の思いに気付くことはできなかったのです。その中に一人だけ、病が癒やされたときに「すべての人の痛み苦しみに無関心でいられないお方」の思いに気が付いたのです。人の命に無関心でいられない神が、自分にも目を留めてくださった。一人だけが神を賛美するために

戻ってきたのです。

自分の痛みや苦しみでは、私たちはイエス様に叫びを上げないようです。医学やサプリが進歩して、ほとんど神に頼ろうとしません。むしろ自分以外の人の苦しみが自分の痛み苦しみに感じられるようになったとき、人は神様に叫びを上げるのでしょうか。母親の例で申し訳ないのですが、母親の痛みが自分の痛みを感じられたので、どうか、兄弟皆集まるまで、無事でいてほしい。無意識に「イエスさま、先生、どうか、イサ子の子どもたちをを憐れんでください」と叫んだのだと思います。

実は神様が真っ先に、被造物である私たちの悩み苦しみを自分のものとしてくださいました。被造物と同じく悩み苦しみを背負うために、神様は人となってくださいました。私たちの苦しみを、ご自分の苦しみとなさるためです。被造物の私たちの命に無関心でいらなかったの、人となってくださったのです。この神の愛、神の憐れみを理解し、感謝し、神を賛美しに来る人は十人に一人。その数は二千年前も今も全く変わっていないようです。

イエス様はそのことを嘆いたのでしょうか。「立ち上がって、行きなさい。あなたの信仰があなたを救った。」(17・19)よく、「本当に主任神父様の説教を聞かせたい人はミサに来ていないのだから意味が無い」と言ったりします。本当にそうでしょうか。「立ち上がって、行きなさい」と励ましたその人は、使命を託されて出かけて行きます。「神を賛美しに戻って来ることは必ず意味がある」と、伝えに行くために「立ち上がって、行きなさい」と言われているのではないのでしょうか。

みなさんも、そうです。神様の救いのわざを完成させるために、十人に一人かもしれませんが、ここに集まっています。「ほかの九人はどこにいるのか。」どこにいるのか分かりません。分かりませんが、あなたは救いのわざを完成させるために神を賛美するために戻ってきてくれました。感謝いたします。

今日私は、皆さんに「立ち上がって、行きなさい。」と伝えたいと思います。ミサで疲れたと、下を向いてトボトボ帰るのではなく、あなたの信仰は、あなたを救う力があるのです。神様の救いのわざを、神を賛美するために戻って来ることで完成させることのできる大きな力を秘めているのです。今日から私たちは、「あなたの信仰があなたを救った」と証しするために、胸を張って日々の生活に戻りましょう。

年間第 29 主日(ルカ 18:1-8)